

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

5

No.723

特集……P2

「東日本大震災」被災地支援 ～ボランティア活動からみえること～

地域を駆ける!ワーカー物語……P8

“ほっとけない!”の種を地域に蒔き続けて
淡路市社会福祉協議会 北淡支部長 凧 保憲さん

教えて!福祉の相談窓口 第12回……P9

兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター
ひょうごっ子悩み相談センター

県社協ニュース……P10

愛ちゃんと希望くんの共同募金NEO……P11
みんなの広場

今月は
児童福祉
月間だよ!



「東日本大震災」被災地支援

～ボランティア活動からみえること～



避難所の様子(石巻市内)

地震被害が中心のところでは復旧の速度と支援が大きく異なっている。特に、街の大半が津波で壊滅状態となり、行政の庁舎や社協建物などがなくなった地域では、ボランティアを含めた外からの支援を受け入れる体制づくりが困難を極めている。まだ自衛隊による捜索活動が続くところもある。また、4月7日に発生した震度6弱の大きな地震により、復旧していたライフラインが途絶し、支援が思うように進まなくなった地域もある。その一方で、被災地内での助け合いと被災地外からのボ

3月11日に発生した東日本大震災から1か月半。国内観測史上最大の地震による巨大な津波が街をのみ込み、甚大な被害をもたらした。未曾有の大災害は、人々の日常を大きく覆した。

一方、震災発生直後に途絶していたガソリンや生活必需品、ライフラインなどの供給・復旧が進みはじめ、ボランティアをはじめとするさまざまな支援が被災地に届けられている。

今月は、特に宮城県でのボランティアによる支援活動(※)と、これから続く復旧・復興に向けた支援のあり方をお伝えする。

※兵庫県社協は、兵庫県行政と全社協と連携し、宮城県を中心とした支援を展開。
※記事は記載がない限り、4月25日現在の状況を掲載。



被災地での復旧を支援しようと、現地でのボランティア活動が活発化している。4月20日現在のボランティア数は、福島県で延べ約2万6000人、宮城県で延べ約7万

みんなの手で復旧を
—13万人のボランティアによる活動—

■表 宮城県内の避難所の概況(4月4日～4月10日)

食生活	●おかずが提供される食事は平均1日1.2食
避難所設備	●間仕切り・更衣室が設置済みの避難所は20% ●テレビ・電話のない避難所が約30%
高齢者・要介護者	●避難所あたりの65歳以上高齢者は36% ●一避難所あたり要介護者2.5人、障害者1人の割合
子ども	●18歳未満7.5%、母子スペースは9%、粉ミルク普及12%

※「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」の避難所アセスメント分析より

ランディアの支援活動で泥出しや片付けが進み、自宅での生活ができるようになった地域もあり、一律的ではなく被災地の状況に即した支援活動が求められている。

地域で大きく異なる
支援内容

宮城県内の今回の大震災による死者は8669人、行方不明者は6856人にのぼっている。避難者数は、3月14日の33万3000人をピークに減少してきたが、現在でも4万1036人が421か所の避難所で生活を続けている。

避難所での生活状況について民間団体が実施した調査結果は表のとおりで、避難所によって状況はまちまちである。例えば、プライバシー確保や空間の使い方一つとっても、簡易な間仕切りやダンボールでプライバシー確保をしたり、椅子やベンチ、喫茶コーナーを設けるなど寝たきり予防の工夫をしている避難所もあれば、こうした環境がまだ整備されていないところもある。物資・食事の充足、トイレや室内の衛生面の配慮も少しずつ整備が進んでいるが、状況は千差万別である。また、学校再開に向けた避難所の統廃合が進み、自宅に戻ったり他の避難所に移動したりする人が出てくるなど、避難所内の生活に変化が出る時期

3000人、岩手県で延べ約3万1000人、合計約13万人(※)である。

被災地でのボランティア活動の内容は、家屋や建物の泥出しや片付けが多いが、避難所での炊き出しやレクリエーション、物資の仕分け、高齢者世帯の水運びから、専門的な技能を持ったボランティアによる整体・マッサージや散髪など多岐に渡っている。津波により町民の半数以上が死亡・行方不明になっている南三陸町では、アルバムや記念品など大切に生きてきた証を土砂やガレキの中から探し、洗って届ける「思い出探し隊」というボランティア活動を展開している。

兵庫県内からも多くのボランティアが被災地で活動を開始。県社協ひょうごボランティアプラザでは、これまで5回のボランティアバスを運行し、炊き出しや片付けなどの活動をするボランティアを送り出している。また、今後の予定を含めると県内35の市町社協(ブロック含む)がボランティアバスを運行し、宮城県でのボランティア活動を支援している。

に差し掛かっている。避難生活が長く引くにつれ、特に高齢者や障害者、小さな子どもの負担が危惧される。

宮城県は、9月末を目途に仮設住宅を3万戸設置することになっているが、現在で2万8000戸の用地確保に目途が立ち、5月末時点で約1万1000戸が完成する見込みである。長引く避難所での生活支援に加えて仮設住宅への移転・仮設住宅での支援が始まる。



1か月経過した宮城県南三陸町(4月20日撮影)

被災地に赴くボランティア活動だけでなく、今、住んでいる地域でできるボランティア活動も多い。例えば、募金活動は息の長い復旧・復興を支える有効な活動である。また、被災地から兵庫県内に避難されてきた方々の生活支援もこれらが必要になってくる。すでに兵庫県内に149世帯478人が被災地から避難してきており、家電製品などの生活物資の調達・寄贈や、生活情報の提供などの支援活動が始まっている。

※各市町村に設置された災害ボランティアセンターに登録せずに活動した人数は含まれない。



全国から被災地に届く応援メッセージ

ボランティアと被災者をつなぐ
—災害ボランティアセンター—

「何とか被災地のためにできることをしたい」という思いを抱いて被災地に赴くボランティアと被災者をつなぐのが災害ボランティアセンターである。宮城県内では各市町村社協が主体になって、NPOやさまざまな団体と連携・協働しながら「災害ボランティアセンター」を17か所(仙台市内含む)で立ち上げている。

災害ボランティアセンターの一番大切な役割は、被災者からのニーズを把握し、ニーズに即した支援ができるようボランティアの能力や個性を生かした調整を行うこと。こうした役割を担うボランティアコーディネーターは、全国各地の社協から派遣されている。若手県内に延べ2116人、宮城県内に延べ3191人、福島県内に延べ1155人、合計6462人の社協職員が派遣されている(4月20日現在)。兵庫県内社協からも延べ342人を派遣している(4月10日現在)。



石巻市災害ボランティアセンター

心の整理がつかず家財道具の処分が断出せない人、避難所や遠方に疎開しているためボランティア活動中の立ち会いが難しい人へのフォローと、SOSの発信力が弱い要援護者のニーズ把握が課題であると感じました。

また、被災世帯へ生活費10〜20万円を無利子で貸し付ける緊急小口資金の貸付業務も派遣社協職員によって実施。朝4時半から被災者が並び、2日間で1000人以上の貸付対応を行いました。

派遣される社協職員サイドの連携の仕組みも重要です。画一的な継ぎにとどまることなく、上手くバトンをつないで

災害ボランティアセンター
の現場から

次に、被災地の災害ボランティアセンターに派遣された3人のコーディネーターの現地レポートを紹介する。

被災しながら住民を支える
スタッフ支援も大切

●高砂市社協 村井 智彦さん
(派遣先：南三陸町、派遣期間：4月11〜18日)

南三陸町は、報道のとおり平野部は鉄骨造の建物を除くと一面がガレキという状況でした。南三陸町災害ボランティアセンターには、「総務・広報班」、「地



南三陸町災害ボランティアセンター

いくため、「みんなとともに考える」を合言葉に派遣職員間で話し合い、問題解決する場と関係づくりを行いました。

地域住民とともに「社協らしさ」を出していけるかがカギ

●洲本市社協 城田 知志さん
(派遣先：気仙沼市、派遣期間：4月7〜14日)

気仙沼市災害ボランティアセンターでは、個別ニーズとしては泥かきや瓦礫の撤去、家具の搬出が多く、避難所からは片付けと清掃のニーズが増えてきていました。市内ボランティア限定で1日80〜120人のボランティアが活動をしていました。

現地で特に留意したのは、早い段階で現地職員と信頼関係をつくること。このためには、現地の文化や方言などの理解が大切です。

今後、重要になるのは、1つ目が地元社協と県社協の連携強化です。長期にわたる被災地支援に向けた視点合わせと力合わせが重要です。2つ目の課題は社協ワーカーとしての知識・スキル・価値を備えた人材派遣で

域支援班」、「受付・マッチング班」、「思い出探し隊」の4班があり、その中で避難所の状況把握、運営支援を行う地域支援班を担当。地域支援班では、志津川地区と歌津地区に担当を分けて避難所を訪問し、ニーズ把握や運営支援を行いました。いまだ全町民の半数近くが避難する避難所では、被災者自らが運営しなければならぬ所が多くあり、町職員や現地スタッフは、先が見えない中で心身とも大きく疲弊していました。

南三陸町はボランティアが宿泊できる施設はなく、水道復旧の目途も立たないため、活動を希望する場合は、本部から活動先への移動手段や食事、宿泊などすべて自己完結ができるボランティア以外は現地入り控える必要があると感じました。

自分は役に立ったのか、やり残した感がある中で現地を後にしましたが、ひとりでも多くの人に南三陸町の状況を伝え、ここ高砂市からできる支援を考えて

す。現場ではとっさの判断力や行動力、即応性、協調性やコミュニケーション力、交渉力、関西の笑いなどさまざまなスキルが要求されます。3つ目は、災害ボランティアセンターの意義の再確認です。ともすれば災害ボランティアセンターをいかにうまく機能させるかが主眼になりがちですが、「被災者主体」「地元主体」のセンター運営が大切。センターすべてのスタッフが今一度、「なぜ社協が災害ボランティアセンターを立ち上げたのか」を振り返る時間も大切だと感じます。社協職員が地域住民とともに「社協らしさ」を出しているかが復旧・復興への道につながっていくように思いました。



気仙沼市災害ボランティアセンター

いきたいと思います。

連携・協働の力で

膨大なニーズに応える支援を

●上郡町社協 竹内盛一郎さん
(派遣先：石巻市、派遣期間：4月15〜22日)

石巻市は、死者・行方不明者ともそれぞれ約2万8000人、避難所が113か所、いまだ1万人が避難する甚大な被害を被った地域です。

石巻市災害ボランティアセンターは、市社協役員やボランティア約30人が運営を担い、約80団体のNPO・NGOと連携しながら、運営をしています。ここでは1日平均1000人のボランティアを送り出していました。前夜までにマッチング班として被災者宅に事前連絡を取る一方、当日はボランティアの送り出しの前に、活動先までの移送手段のある人・ない人、資材運搬ができる人・そうでない人、男性・女性などで活動先を調整し、活動内容と注意事項を説明、活動後は報告の受付を行うという調整業務を約10人のスタッフで担当

これからの課題
—命をつなぐ福祉救援活動—

震災から1か月半。長引く避難生活による関連死の増加や心身の健康問題が危惧されている。特に避難所での生活者、在宅の高齢・障害者を中心に、この視点でニーズ把握と日常的な支援活動を行うことが必要である。

4月17日に本会が開催した「福祉救援ラウンドテーブル」では、参加者から「震災から1か月経過しても、避難所では仕切りがない中でおむつ交換が行われたり、起床の介助が受けられなかったりする高齢者が見られる」「被災しながら必死で救援活動を続ける専門職が休息できるような継続的な支援が必要」という意見が出された。福祉救援活動を進めるための支援の仕組みづくりが急がれる。未曾有の災害をどのように乗り越えるのか。被災者の命と暮らしを守り、被災者が望む復旧・復興をみんなで支えること。一人ひとりにできることは小さいが、被災地の復旧・復興と一緒に考え、できる部分でかかわることが次の一歩を踏み出す大きな力になるのではないだろうか。

被災者の支えになるボランティア活動に向けて

被災地でボランティアによる支援の手はまだ必要です。一方、ライフラインの復旧の目途が立たず、ボランティアの移動手段や食料などの現地確保が難しい地域もあります。

まずは、事前に情報を入手し、どのような支援が可能かを考え、十分な準備をしてから被災地でのボランティア活動をおこないましょう。

インターネットで情報を調べる

●全国社会福祉協議会 被災地支援・災害ボランティア情報

被災地の全体的な状況を発信。災害ボランティアセンターのホームページがリンクされています。

<http://www.saigaivc.com/>

●東日本大震災支援全国ネットワーク

「災害ボランティア活動ガイドライン」に、ボランティア活動の事前・活動中・事後の留意点が分かりやすくまとめられています。

<http://www.jpn-civil.net/>

●3.11救援情報サイト 助けあいジャパン

被災地でのボランティア活動に関してよくある質問がQ&Aで掲載されています。

<http://tasukeaijapan.jp/>

●ひょうごボランティアプラザ

兵庫県から出発するボランティアバスをはじめさまざまなボランティア情報を掲載しています。

<http://www.hyogo-vplaza.jp/>

現地に入る前に行ってみる

●東北自動車道ボランティア・インフォメーションセンター

バス、マイカーなど高速道路を利用したボランティアの急増に備え、兵庫県と兵庫県社協が4月20日にボランティアのためのインフォメーションセンターを開設しました。道路交通情報や被災地の状況など、現地に入る前に立ち寄って情報を収集できます。

- 場 所：東北自動車道 泉パーキングエリア(スマートETC-IC併設)
- 受付時間：7:00～18:00
- 電話番号：022-377-3122
- E-mail：hyogo_v_plaza@yahoo.co.jp
- ホームページ：http://ameblo.jp/v-info/



ボランティア・インフォメーションセンター

被災地を見たこと・これからできること～ボランティアの声～

1人よりも100人の力で復旧を(曾我 駿也さん)

佐用町社協のボランティアバスに申し込み、4月16～17日に宮城県石巻市に行きました。佐用町の水害時には、全国から1万6000人のボランティアに来ていただきました。バスに乗車したボランティアはみんな恩返しの気持ちもあって参加されたと思います。

活動内容は、避難所での清掃活動や重機が入らない生活道路のガレキの撤去などです。漁村なので腐敗したイカを除去する作業もありました。2日目は民家の片付けや倉庫の荷物だし、庭に30センチほど溜まったヘドロ出しでした。この地区で活動するボランティアは私たちが初めてと聞きました。

自分の目で見ると、テレビの映像以上の深刻な状況でした。東北の方々は我慢強く、復旧は自分たちでしないと仕方がないと思っておられます。でも、1人よりも100人でやれば復旧は早くなります。もっと、もっと人手が必要だと思いました。ボランティアは大変なこと、難しいことではありません。重労働ができなくても炊き出しや片付け・掃除など、できることはたくさんあります。復興まで長期ですから、機会を作ってまた現地に行こうと思っています。

善意の押しつけをしないこと(大館 伸行さん)

ひょうごボランティアプラザのボランティアバスで宮城県松島町と東松島市に行きました。ヨットハーバーの復旧補助と住宅での泥かきと片付けを行いました。現地は、想像以上にひどい状況でした。当時はまだ物もガソリンも不足していましたし、とにかく人手が足りない状況でした。

片付けをお手伝いして痛感したのは、被災者の方は毎日、不便な生活の中で休みなく片付けをされ、大変な思いをされているということ。特に、高齢者の方にとっては本当に重労働です。自分の親世代の方々が懸命に片付けをされている姿を見て、後ろ髪を引かれる思いでいっぱいでした。

ボランティアは、善意の押しつけをしないことが大切だと思います。被災者の願いや現地の状況に極力、応えることが求められているのではないのでしょうか。

行ったことで勇気がもらえました(川上 みなほさん)

小学校4年生になる息子を連れて、3月末に仙台市内でボランティア活動をしました。

「被災者の方の邪魔にならないだろうか」。不安と緊張でドキドキしながら宮城野区ボランティアセンターに向かいました。行ってみると神戸の震災の時と違い、ボランティアを受け入れる体制が整えられていて、びっくりしました。私たちは、マンションの片づけと、片付けの間の子供の預かりをしました。そのうち1件は、避難所でこけて肩を骨折した一人暮らし女性のお宅でした。男性が家具を動かし、私たちは片づけと掃除をしました。

被災地で不足していたのは「人」です。ボランティアの約8割以上は被災した地元の方のようでした。その他は、北海道から車で来たアメリカ人や父親とキャンピングカーで来た奈良の高校生、茨城の女子高生3人組など、各地から来られていました。県外ボランティアは、自分の衣食住を準備すればボランティアができるのです。一度行ったことで勇気をもらえました。夏休みも行きたいと思っています。



ボランティアによる片付け・泥かき活動(石巻市内・佐用町社協提供写真)

地域を駆ける！
ワーカー物語

ほっとけない！の種を 地域に時き続けて

阪神・淡路大震災が出发点

風保憲さんが故郷である北淡町（現・淡路市）社会福祉協議会の採用試験に合格して間もない平成7年1月17日、マグニチュード7.3という都市直下型の大地震が発生した。2か月後、社協で最初に担当した業務は、長期で活動していたボランティアの調整役だった。事務所まで泊りをしながら、深夜からのミーティングも日常的な毎日の中で、「被災者のために何かできることがあれば」とひたむきに活動するボランティアの姿から、「自立という視点に立脚したまちづくりの視点」を学んだことが、社協ワーカーとしての出発点となった。

人は気づくことで変わる

風さんの次の転機は、地域福祉推進計画づくりの際に訪れる。学生時代に知的障害者の地域生活について学んだこともあり、北淡町に小規模作業所がないという素朴な疑問



「ぼれぼれ」メンバーと一緒に記念撮影

から、知的障害の子を持つ母親の参画を得て、作業所の設立を計画の中に盛り込むことに取り組んだ。その結果、念願の作業所「障がい者地域生活拠点『ぼれぼれ』」が平成15年4月にオープン。ゆっくりゆっくりを表す名前には、「目指すべき夢を地域の住民に向けて発信し続けることで実現していきたい」という思いを込めた。

障害者への偏見の中に置かれてきた母親たちが、作業所という一つの方向に向かって取り組む中で、自身の力を取り戻す過程に接する。とともに、当事者の思いを組織の方針にできたことは、「その後の活動にとって大きな励みになった」という。その後も、人権についての啓発の必要性を感じ、住民向けの学習会「気づきの広場」を開催。「人は学ぶことで気づく、気づくことで変わる」という信念のもと、幅広い視点から人権意識を深める機会を地域に生み出し続けている。

「気づいた者の責任」を原動力に

そんな風さんの活動を支えているのは、地域の福祉課題への「気づいた者の責任」という考えだ。「駅で転んだ人を見つけたときは、手を差し出すだけでなく、次に転ぶ人が出ないための方策を考えることが大事。そんな『ほっとけない』という同じ思い

淡路市社会福祉協議会

なぎ やすのり
北淡支部長 風 保憲さん

Personal History

- 25歳 阪神・淡路大震災発生 北淡町社協（現淡路市社協）に入局
- 33歳 「障がい者地域生活拠点『ぼれぼれ』」の開設
- 35歳 社協合併により淡路市社協発足、北淡支部長に就任

を持った人たちが地域の中に増やしていくことが地域福祉の役割」だと風さんは語る。

この3月、風さんは東日本大震災の救援活動のため、全国の社協職員とともに宮城県へと赴いた。そこで痛感したのは、避難所で生活を続ける高齢者や障害者などに対する支援の必要性だ。社協職員として当事者に寄せる風さんの眼差しは、いつも温かい。

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

福祉の相談窓口



このコーナーでは、暮らしに役立つ福祉の相談窓口を紹介します！

第12回

兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター ひょうごっ子悩み相談センター

兵庫県立教育研修所は、こころ豊かな人づくりを目指して、教職員の資質能力と実践的指導力の向上を支援する専門機関である。

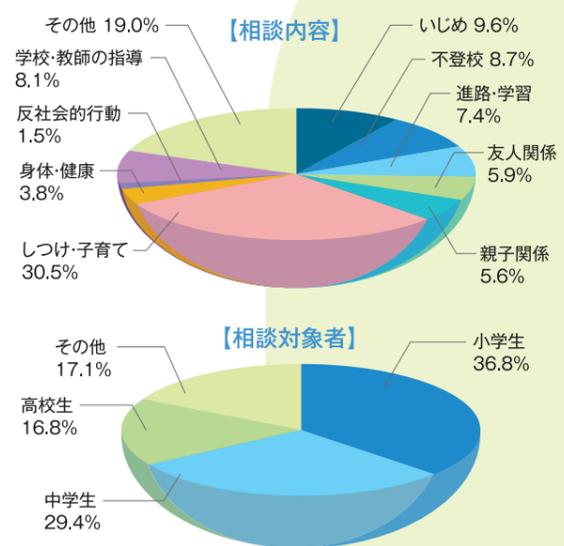
今回は、同研修所で行われている教育相談活動で、いじめ、不登校、友人関係や進路などで悩んでいる児童生徒や保護者などの相談に応じ、心の悩みの解消を図る「ひょうごっ子悩み相談センター」を訪ね、お話を伺った。

経験豊かな相談員が相談対応

相談センターへの相談方法は、電話相談と予約制の面接相談の二つに分けられる。

電話相談は、児童生徒本人からだけでなく、保護者などからも広く寄せられ、平成22年度は年間4,035件の相談実績があった。電話相談は、「近くに相談する人

平成22年度 相談内容及び相談対象者



おり、平成22年度は年間422件の相談実績があった。一定の時間をとって個別の相談をしたいという保護者等の希望に応じ、日程を調整し臨床心理士の資格を持ったカウンセラー相談対応を行っている。

子育ての相談からいじめや人間関係の悩みまで

相談内容はさまざまであるが、「しつけ子育てに関すること」が最も多い。特に学童期の子どもを持つ保護者からの相談では、しつけや子育て、親子関係に関するものが多く寄せられるという。

保護者にとって、しつけ・子育てには正解がないものであり、多くの人々が悩むがちな事柄でもある。「自分が行ったしつけが虐待にあたるのではなにか」と不安を感じて相談が寄せられるケースや、子どもの成長をうれしく思う反面「親子関係に変化を感じ、悩んでいる」といった相談が寄せられる

こともあるという。保護者の多くは、誰にも相談できず、打ち明けられなかったことを話すことで、自分自身の気持ちを整理できたり、アドバイスをもらい、新たに子どもに向き合ったりすることにつながっていくという。相談内容の必要に応じて、教育分野に限定することなく、福祉分野などの専門窓口を紹介することもあるという。

一方、子どもからの直接の相談は、学校でのいじめや人間関係の悩みなどが寄せられている。具体的な対応を図らなければならぬ場合以外は、基本的に、悩みをじっくりと聞き、それをベースに悩みの解消のため、一緒に考えること、そして必要なアドバイスが行われる。

このように、「ひょうごっ子悩み相談センター」は、教育分野だけでなく、広い視点から、子どもに関する悩み、相談を受けとめ、子どもたちや保護者等の悩みの解消と、心の成長を支える開かれた窓口になっている。

兵庫県教育研修所
ひょうごっ子悩み相談センター
☎0795-42-6004
☎0120-783-111
(受付時間 9:00~21:00)



第2回 災害時に活躍する木製ブロック「つみっく」

NPO法人 つみっくらぶ(平成22年度V・NPO助成事業)



被災地で活躍している「つみっく」



つみっく防災スクールの様子

現在、「平成23年度ボランティア・NPO支援事業」の要望受付をしています。そこで今回は、昨年度決定した「NPO法人つみっくらぶ」の事業内容についてご紹介いたします。希望くんとあゆむくんへ。

つみっくらぶ つみっくらぶは「つみっく(厚さ10cm×縦45cm×幅20cm)」と呼ばれる間伐材を利用した大型木製ブロックを使って、防災・環境・子育て支援の3つのテーマイベントを開催したんだ。

あゆむくん ユニークなイベントだけでなく、具体的にどんな内容なのか教えてください。

つみっくらぶ 3つのスクールに分けて実施されていて、具体的には、

①防災スクール…「ささやか安心空間」を学校や自治会単位で体験し、防災意識と人と人とのつながりの大切さを実感してもらおう。

②環境スクール…日本の森林問題を環境問題として広い視野で考えたいワークショップを行う。

③子育て支援スクール…子どもたちの創造性・協調性を磨く体験を実施するの3つだよ。

あゆむくん なるほど。楽しく学べていいわね。特に、①の防災スクールは震災の時にとっても役に立つんじゃないかしら。

つみっくらぶ 実は、今回の東日本大震災の被災地へ、備蓄していた「つみっく」をたくさん運んで組み立てたんだ。避難所のプライバシー対策に一役買っているんだよ。代表の西尾さんも災害時は駆けつけて組み立てるのが私たちNPO法人の目的の1つですと語っていたよ。

あゆむくん そつだつたね。貴重な助け合いの募金がいざという時に生かされるんだね。

つみっくらぶ うん、そつだね。

あゆむくん これからも県内で活動しているボランティアやNPO団体を応援していきたいわね。

今年度も「平成23年度 ボランティア・NPO支援事業」の受配要望の受付を開始いたしました。受付締め切り=平成23年5月13日(金)当日消印有効
詳しくは本会のホームページをご覧ください。
<http://www.akaihane-hyogo.or.jp/>

「東日本大震災」の被災者・被災地支援を考える 〜第1回福祉救援ラウンドテーブルを開催(4/17)〜

「東日本大震災」発災以来、県内社協は多くの社協職員を派遣し、被災地の災害ボランティアセンター(以下「災害VC」)の運営支援にあたり続けている。

このたび、被災者・被災地支援活動を行う県内市町村社協やNPOなどの関係者約90人が集まり、支援上の課題や方向性について意見を交わした。社協やNPOの支援活動者4人が現地での活動を報告し、これからの支援の方向性について次のような意見が挙がった。



宮城県と福島県での支援状況と課題を報告

●避難所ごとに異なる支援の濃淡への対応

●被災地に届くさまざまな支援を現地でコーディネートする機能の強化(被災地への継続的・長期的な支援者を派遣)

特に、災害VCの運営支援者には、被災地社協が地域住民と協働して復興できるような支えになることが必要だと強調された。

参加者からは、「介護ボランティアのチームをつくって派遣することも必要ではないか」「遠隔地だからこそできる息の長い支援を考えたい」など、さまざまな意見が出された。

今回のラウンドテーブルで明らかになった課題を踏まえ、今後も福祉救援を考える機会づくりを続けていく予定。

寄付について(お礼)

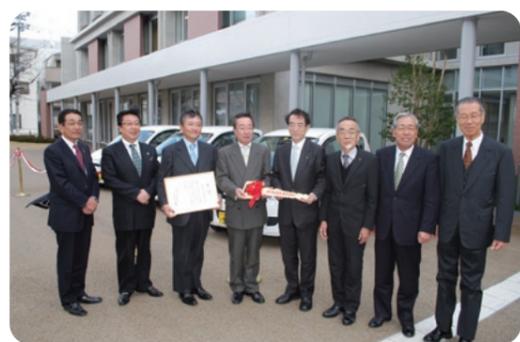
●大阪陸運協会より70万円が寄付



平成23年2月24日、財団法人大阪陸運協会から兵庫県社会福祉協議会へ70万円が寄付された。同協会は毎年、交通遺児への救護事業として2府4県の社会福祉協議会、交通事故被害者援護財団、財団法人交通遺児育成基金へ寄付を行っている。

「地域福祉の充実が交通遺児への支援となる。社会福祉全体の推進のために使ってほしい」という意向により、寄付金は社会福祉推進の支援に活用される。

●兵庫県生命保険協会による福祉巡回車の贈呈式開催



兵庫県生命保険協会より、神戸市、加東市、養父市の3社協へ福祉巡回車が各1台寄贈された。3月4日に県福祉センターにて開催した車両の贈呈式では、兵庫県生命保険協会 副会長 井林義裕氏から「安心して暮らせる地域の実現のためにぜひとも福祉車両を活用してほしい」とあいさつが行われた。

同協会は平成元年より地域への社会貢献の一環として県内の生命保険会社18社に勤める職員約9000名から募金を募り、社会福祉協議会や福祉施設等に50台以上の車両寄贈を行ってきた。



みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです



子どもたちの笑顔を生かそう

兵庫県児童養護連絡協議会

兵庫県児童養護連絡協議会は、保護者の元を離れ仲間と共に集団で生活をする子どもたちの施設である児童養護施設16施設(神戸市を除く)を会員とする団体です。

事業内容は、入所児童の心身の健全育成を目標に各種スポーツ大会を実施する児童集団行事、施設内暴力調査・業務基本統計を行う調査研究事業、施設長・職員を対象にした研修事業、子育て支援の核となる児童福祉施設への県民理解を一層深めるための啓発活動を行っています。

連絡先

兵庫県児童養護連絡協議会事務局
〒671-1102 姫路市広畑区蒲田383-3 ☎079-230-1212 FAX 079-230-1213 E-mail info@hyogo-kids.gr.jp

こんな取り組みをしています

第20回「おーいあつまれ!こいのぼりの集い」参加者募集中!

「おーい集まれ!こいのぼりの集い」は児童福祉週間の記念事業として毎年開催するフェスティバルで、家族を離れて施設で暮らす児童と、その職員、児童福祉関係者・地域住民(親子等)が一堂に会します。



会場入口には児童養護施設や乳児院を紹介したパネルの展示や、啓発コーナーを設置し、場内では焼そば・たこ焼き・ジュース等の模擬店やゲームコーナーがにぎやかに並びます。舞台では子どもたちや職員が日々研鑽した唄や踊りを披露するなど、施設の子どもたちが元気に明るく過ごしている姿をアピール!是非、会場に足を運んでください!

日時 平成23年5月14日(土) 10:00~15:30 (予備日 5月15日(日))
場所 明石公園西芝生公園 **参加費** 入場無料

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

お問い合わせ先
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

NHK厚生文化事業団
「第23回わかば基金」

地域に根ざした福祉活動をすすめている法人格をもたないグループ(NPO法人は申請可能)を支援します。

内容 第1部門/支援金贈呈、第2部門/リサイクルパソコン贈呈

助成額 第1部門/1件上限100万円(10件程度を予定)、第2部門/1グループ3台まで(パソコン50台から100台を支援予定)

締切り 平成23年5月31日(火)必着

④NHK厚生文化事業団近畿支局
TEL06-6937-3412

URL <http://www.npwo.or.jp/wakaba/>

ニッセイ財団高齢社会助成
先駆的事業助成

「共に生きる地域コミュニティづくり」をテーマに助成を行います。

対象 ①高齢社会における地域福祉、まちづくりを目指す地域を基盤とした先駆的事業 ②高齢者の自立・自己実現・社会参加等を推進する地域社会システムづくりの先駆的事業 ③認知症高齢者に関する予防からケアまでの総合的な先駆的事業

助成期間 平成23年10月から最長2年半

助成額 1団体あたり700万円以内(2~3団体)

締切り 平成23年5月31日(火)

④日本生命財団 高齢社会助成 事務局
TEL06-6204-4013

URL <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/>

平成23年度コミュニティ・ビジネス
離陸応援事業

新たにコミュニティ・ビジネスを始めようとしている団体のうち、審査会において選定された団体に対し、立ち上がりに必要な初期経費の一部を補助します。

対象 兵庫県内に活動拠点をおき、兵庫県内を活動領域として新たにコミュニティ・ビジネスを始めようとしている団体(任意のグループのほか、特定非営利活動法人、株式会社、有限会社等)

助成額 上限75万円

締切り 平成23年6月10日(金)必着

④兵庫県産業労働部政策労働局
しごと支援課 TEL078-362-9183

URL <http://web.pref.hyogo.jp/>

日本財団ROADプロジェクト
「東北地方太平洋沖地震
災害にかかる支援活動助成」

今回の災害における支援活動をさるようとして
いる団体に対して活動資金の助成を始めます。

対象 「東北地方太平洋沖地震」による被災者・被災地支援に関わる活動をする、特定非営利活動法人(NPO法人)やボランティア団体、その他の公益法人

助成額 上限100万円

締切り 平成23年6月30日(木)17:00まで

④日本財団災害支援コールセンター
TEL0120-65-6519

URL <http://www.nippon-foundation.or.jp/>

財団法人みずほ教育福祉財団
第9回配食用小型電気自動車寄贈事業

高齢者向けの配食サービスを行っているボランティアグループに対して、配食用小型電気自動車(通称みずほ号)の寄贈を行います。

対象 ①原則週1回以上の配食活動を行っているボランティアグループ(行政などから給配食事業の委託を受けていないNPO等非営利団体・法人) ②社会福祉協議会推薦を受けたもの、または全国老人給食協会の会員で、同教会の推薦を受けたもの

助成額 ①配食用小型電気自動車(1グループ1台10グループ程度)②1台総額110万円を限度

締切り 平成23年6月30日(木)

④みずほ教育福祉財団
TEL03-3596-4532

URL <http://www.mizuho-ewf.or.jp/>

募集

東日本大震災兵庫県義援金の募集

今回の地震津波災害において極めて広域で未曾有の被害が生じていることに鑑み、阪神・淡路大震災時にご支援をいただいた兵庫県の各界各層が一体となり、義援金を募集して被災地を支援します。

募集期間 平成23年6月30日(木)まで

募集方法 下記口座にお振り込みいただくか、募金箱にお願いいたします

義援金受入口座 郵便振替口座

記号 00910-3-322340

口座名義 東日本大震災兵庫県募集委員会

*別途、振込手数料が必要です

*この口座は、税法上の寄附金控除、法人税法上の損金算入の対象となります

義援金の使途 東日本大震災の被災地を通じ、被災者にお届けします

構成団体 兵庫県・兵庫県議会・兵庫県市長

会・兵庫県市議会議長会・兵庫県町村会・兵庫県町議会議長会・兵庫県社会福祉協議会・神戸新聞厚生事業団・兵庫県商工会議所連合会・兵庫県商工会連合会・(株)ラジオ関西・(株)サンテレビジョン(順不同)

④東日本大震災兵庫県義援金募集委員会事務局(兵庫県防災企画課内)

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 TEL078-362-9870(9:00~18:00。平日のみ) FAX078-362-9914

行事予定

- 5月13日 老人福祉施設新任職員研修(Aコース)◆生田文化会館
- 10日 兵庫県社会福祉施設経営者協議会総会・30周年記念事業◆ANAクラウンプラザホテル神戸
- 16日 障害福祉施設系事業所新任職員研修(Aコース)◆県中央労働センター
- 20日 児童福祉施設新任職員研修◆社会福祉研修所
- 24日 老人福祉施設新任職員研修(Bコース)◆生田文化会館
- 27日 新任リーダー研修◆県福祉センター
- 30日 保育所新任保育士研修(Aコース)◆社会福祉研修所
- 6月1日 老人福祉施設新任職員研修(Cコース)◆社会福祉研修所
- 6日~ 介護支援専門員専門研修課程I・更新研修A(前期)◆県医師会館ほか
- 8日 老人福祉施設新任職員研修(Dコース)◆社会福祉研修所
- 9~10日 近畿母子生活支援施設研究大会◆舞子ビラ神戸
- 10・15日 社会福祉援助技術研修・基礎(Aコース)◆社会福祉研修所
- 13日 保育所新任保育士研修(Bコース)◆社会福祉研修所
- 15~17日 全国私立保育園研究大会◆神戸ポートピアホテル
- 16~17日 近畿児童養護施設研究協議会こうべ大会◆舞子ビラ神戸
- 20日 福祉行政機関新任職員研修◆社会福祉研修所
- 24日 障害福祉施設系事業所新任職員研修(Bコース)◆社会福祉研修所
- 30日~ 介護の仕事、魅力「再発見」セミナー(7月1日 Aコース)◆OAAはりまハイツ

~安心して被災地でボランティア活動をするために~

ボランティア活動保険<災害特例型>
にご加入ください

掛金
(おひとり)
300円

- 受付・加入して即時適用されます。(通院1日2,000円/入院1日3,000円)
- 活動中の地震・噴火または津波でケガをされた場合も対応。
- ボランティア活動に赴く往復途上のケガにも対応。
※居住地の市区町社会福祉協議会でお申し込みください。
※本県HPでチラシを掲載しています。<http://www.hyogo-wel.or.jp/shinsai/index.html>

お問合せ先

兵庫県社会福祉協議会地域福祉部 TEL078-242-4634
兵庫県保険サービス(取扱代理店) TEL078-735-0166
三井住友海上火災保険株式会社 神戸法人部営業第一課(引受保険会社) TEL078-331-8502



有限会社 イワタ情報コンサルティング

「がんばろう!日本」&「Pray for Japan.」

代表取締役 岩田 昌樹

〒674-0094 兵庫県明石市二見町西二見18-68
Tel. 078-949-2133 Fax. 078-949-2155
<http://www.iwa-con.com/> Email. info@iwa-con.com

- 人材コンサルティング
- ITコンサルティング
- ホームページの制作
- パソコンの出張サポート
- N T T 代理店